作成者（　　　　　　　　　　　　）

設定

定める

主題i える

題

Ａ３道徳リードシート

**１**



■日時　平成（　）年（　）月（　）日（　）曜日　第（　）校時

■学年　第（　　　）学年（　　　）組　　（　　　　）名

内容項目に係るキーワード

本時の内容項目

内容項目に係る児童生徒の実態

教材名（出典）

教　材

実　態

主　題

主題名

ねらい

本時のねらい

**２**

分

析

教える

材



①道徳的に変容した登場人物は，誰か。

（Ａ）

②（Ａ）が変容するきっかけになった出来事は，何か。

（Ｂ）

教

材

分

析

③（Ａ）が変容を遂げて，どうなったか。

（Ｃ）

授業終了後に本時のねらいに迫った児童生徒の考え

④（Ｃ）を中心発問として構成しましょう。

授業終了後にねらいに迫った児童生徒の考え

⑤本時のねらいを明確にしましょう。

例：（Ｂ）をきっかけに（Ｃ）した（Ａ）の気持ちを考えることを通して，（Ｄ）の大切さに気付かせ，（Ｅ）しようとする（Ｆ）を育てる。

※参考

（Ａ）道徳的に変容した登場人物

（Ｂ）（Ａ）が変容するきっかけになった出来事を記入する。

（Ｃ）（Ａ）が変容を遂げたところを記入する。

（Ｄ）内容項目から児童生徒の状況や発達段階に応じて記入する。

（Ｅ）内容項目から児童生徒の状況や発達段階に応じて記入する。

（Ｆ）道徳性の諸要素（道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度）を記入する。

※教材の特質から，本教材分析が適応できない場合もあることに留意する必要がある。



　　　　から　　　　までを順番に記入してください！

**１**

**４**

構想

想像

授

業

**３**

◎中心発問または児童生徒に道徳的価値に対する考えをもたせるための発問

※ 本時における一面的な見方から多面的・多角的な見方へとつながる問い返しの発問例

□　① 解決策の理由（動機）を問う発問　 「どうしてそう思いましたか。」

□　② 将来の結果（因果関係）を問う発問 　　 「そうしたら，どうなると思いますか。」

□　③ 過去の経験を振り返り，将来の見通しを立てる発問　「自分も同じような経験ありませんか。」

□　④ 可逆性の原理を用いた発問 「自分がそうされてもよいですか。」

□　⑤ 普遍性の原理を用いた発問 「いつ，どこで，誰にでもそうしますか。」

□　⑥ 互恵性の原理を用いた発問 「それで皆が幸せになれますか。」

□　⑦ その他 　　　　　　　　　 「～は，どんな気持ちでしょうか。」

「～のしたことをどう思いますか。」

【参考】道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（第２回）における岐阜大学大学院　柳沼良太准教授の配付資料より

授業のねらいに深く関わる発問



児童生徒の予想される多様な反応

児童生徒の予想される多様な反応



問い返しの発問

児童生徒の反応に対する問い返しの発問

|  |
| --- |
| 【座席表】 |
|  |  | 　 |  |  |  |  |  |
|  | 児童生徒の座席表 |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | ポイント | 主な発問（◎中心発問または児童生徒に道徳的価値に対する考えをもたせるための発問） |
| 導　入 | ○主題にかかわる問題意識をもたせる。○教材の内容に興味や関心をもたせる。○学習への雰囲気づくりを大切にする。 | ○ |
| 展　開 | ○中心的な発問等を軸として一貫性のある発問の構成を考える。・児童生徒の実態と教材の特質を踏まえた発問とする。・児童生徒がどのような問題意識をもち，どのようなことを中心にして話し合うのかについての主題が明確になった学習とする。 | ○発問の流れ○◎○ |
| ○ |
| 終　末 | ○学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。○自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感させる。 | ○ |



過程

程く

導

指

学習

習う

**４**







問い返しの発問例

